

【概要】

薬物療法を的確に実施するためには、患者の疾病に応じた適切な医薬品の選択のみならず、個々の患者に対する最適な投与方法（投与量、投与間隔の設定）も重要な因子となる。臨床薬物動態学は、血中薬物濃度から得られる情報、あるいはヒトにおける薬物動態に関するエビデンスをもとに、個々の患者に対して最適な薬の投与方法を科学的に設定することを目的とする。そのためには、薬物の体内動態（吸収・分布・代謝・排泄）の速度論的解析とそれに基づく臨床薬物速度論の知識が必要になる。本講義では、治療薬物モニタリング（TDM）と臨床薬物速度論に基づく投与計画について学び、さらには患者個々の薬物動態の変動について学び、薬剤師による薬物投与計画を実践する上で必要な知識を修得する。

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による